

01

保護者説明会の実施報告

保護者説明会の実施報告

保護者説明会の開催概要

項目	内容
説明会の目的	1. 昭島市における地域連携・地域移行の考え方や実証事業について保護者に説明し、理解を促すため 2. 「モデル実証」の詳細を理解してもらい、参加を促すため
説明会の名称	～地域のみんなで創る 部活動の未来～ 地域クラブ活動 あきしまRe:Club 「モデル実証」説明会
開催日時	2025年7月30日（水） 実地開催： 18:00開場 18:30開始 オンライン開催： 18:00スタンバイ 18:30開始
開催方法	①事前の動画配信 ②実地開催+オンライン開催
会場	アキシマエンシス体育館
実地開催回数	1回 ※開催内容を録画し、後日、 <u>閲覧可能なアーカイブ</u> として、未参加者向けにオンライン配布
①動画配信内容	「事業解説動画」の構成 <ul style="list-style-type: none"> 国・都の考え方の説明 昭島市の方向性の説明 質問の受付（オンライン）
②実地開催内容	<ul style="list-style-type: none"> 実証事業の具体的説明 動画への質問に対する回答



←参加者募集のための周知チラシ



↑実地開催の様子
←オンライン開催の様子



開催結果と主なご質問・ご意見等

当日の流れ

第1部	はじめに
	制度の背景と国・市の方針
	地域クラブとは何か
	よくある質問と気になるポイント
	質問タイム
第2部	昭島市が考える地域移行・地域展開の進め方
	今年度のモデル実証について
	保護者との連携と今後の進め方
	質問タイム

参加者数

実地会場	中学生の保護者	9名
	学校・地域の方	12名
	他自治体（調布市）	5名
オンライン		24名
	合計	50名

事務局

- 指導課：吉岡、田中、佐藤、櫻井、矢島、前田（6名）
- スポーツデータバンク：田村、須賀、スタッフ2人（4名）

◆実地会場での主なご質問・ご意見等

近隣自治体の事例紹介をしてほしい

スポーツデータバンクが多くの実績をお持ちとのことなので、近隣の自治体における地域移行の取り組み事例を紹介してほしい。特に、モデル実証にあたって参考になりそうな成功例や課題について具体的に知りたい。参考にしたいポイントの一例として、種目の選定はどのように行っているか？ 指導者の確保や配置はどのように行っているか？ 継続的な運営体制はどのように整備しているか？ など

現場感に欠ける印象がある

本日の説明を聞いていると、理想や構想は語られているが、現実的な運営方法や課題への対処が見えてこない。「夢のような話」を聞いているようで、現実的な実行可能性が感じられなかった。

生徒数減少による現実的な問題にどう対応するのか

少子化の影響で部活動の存続が困難になっている（例：野球部が単独でチームを組めないなど）。そうした実態に即した議論や対策が求められるのではないか。

スポーツ協会など既存の地域資源との連携が見えない

昭島市にはスポーツ協会があるが、今回の地域移行の話の中でその存在や関与が語られておらず、違和感を覚える。地域の既存団体との連携体制について明示してほしい。

地域団体への移行に伴うトラブルの懸念

学校から地域に活動を移すことで、責任の所在が不明確になり、トラブルや混乱が生じるのではないか。そのような事態への備えや、責任の線引きはどうなるのか。

改革の動機が明確に伝わってこない

今回の取り組みは「中学校の部活動が立ち行かなくなってきたこと」が主な背景であり、「新しいスポーツ文化の創造」といった前向きな話とは少し異なるはず。なぜいま地域移行を進めるのか、その背景と目的を率直に伝えてほしい。

開催結果と主なご質問・ご意見等

スケジュールや進め方の具体性が不足している

「実証を進める」との説明はあったが、いつ何を行うのか、スケジュールや実行計画が不明確。市として、どのような段取り・段階を踏んで進めていくのかを明示してほしい。

実現に向けたリソースやエネルギーが心配

実現には多大な労力と予算が必要になると感じる。そのような人的・財政的リソースを確保できる見込みがあるのか、不安に感じる。

学校体育との関係性についての疑問

地域クラブで扱う種目と、学校の授業（体育）で教えている内容との関係はどう整理されるのか？ 例えば、学校体育で扱う種目が地域クラブでも展開される場合、指導内容や役割の重複などはどう調整するのか？

これまでの地域スポーツクラブの実態把握が必要ではないか？

東京都では30年ほど前から地域スポーツクラブ設立が進められてきたが、財政や指導者不足などにより、多くの地域では十分に機能していないのが実態ではないか。昭島市においても、まず既存の地域クラブの実態や運営状況をしっかり把握・分析すべきではないか。

既存クラブと新設クラブの役割や連携は？

すでに市内に存在する「地域スポーツクラブ」と、今回新たに進めようとしている「地域クラブ活動」の役割や関係性はどうなるのか？ 競合するのか、統合・連携するのかといった整理が必要ではないか。たとえば横浜市などでは、数千人規模の成功事例もあると聞く。成功例と失敗例の違いは何か？ うまくいっている自治体と昭島市の条件を比較し、何が必要かを考えてほしい。

過去の反省を活かす視点が必要では？

これまでの地域スポーツクラブ政策が「やりっぱなし」で終わってしまった面がある。今回の取り組みも同様に、仕組みだけ整えても実態が伴わない懸念がある。過去の反省を踏まえた慎重な設計が必要ではないか。

「習い事化」への違和感と懸念

日野市の事例紹介で、「10回」「8回」「12回」といった限定回数制の運営形式を聞いたが、それは従来の「部活動」とは異なり、「習い事」のような印象を強く受けた。単発・短期の活動形式は確かに参加しやすい面もあるが、部活動ならではの継続性や仲間との関係性が失われるのではないかと心配している。

学校内の仲間との継続的な活動の価値

子どもが現在、中学校の部活動に参加しており、同じ学校の友達と一緒に活動することで得られる経験や関係性には大きな価値があると感じている。また、活動を長く継続していく中でこそ育まれる力や達成感もあり、それが失われないようにしてほしい。

費用負担の不安と公平性への懸念

会費がたとえば「500円×回数」といった形になったとき、経済的に負担が大きい家庭や子どもが活動から排除されてしまう可能性があるのではないかと不安を感じている。「すべての子どもが等しく参加できる環境」は本当に担保されるのか、制度設計においてその点をどう考えているのか教えてほしい。

部活動の良さをどう継承していくのか

地域移行によって制度が変わっていく中で、部活動ならではの「仲間」「継続性」「学校とのつながり」などの良さをどう継承し、維持していくつもりなのか、その考え方や方向性を明確にしてほしい。

家庭環境による参加の格差への強い懸念

子どもたちは自分の家庭の経済状況を敏感に察しており、「行きたくない」と表現していても、実際は金銭的な理由で「我慢」していたり、「本当はやりたいけれど諦めている」ことが少なくない。地域クラブが有料・回数制になると、経済的な背景により参加できない子どもが確実に出てくるのではないか。

開催結果と主なご質問・ご意見等

「全ての子どもが参加できる環境」の担保をどうするのか？

誰一人取り残さない仕組みが本当に実現できるのか、大きな疑問と不安がある。予算が莫大にかかることは理解しているが、だからこそ制度設計時点で、経済的に困難な家庭の子どもも継続的に参加できるような対策が必要ではないか。

行政の予算配分と支援の在り方に関心

教育行政として、このような子どもたちの声や実態をどう捉え、どう反映し、どこまで財源を確保して支援していくのかを明確にしてほしい。

「提案が見えない」ことへの不満

長時間の説明を聞いていたが、実質的に示されたのはアンケート結果のみで、今後どのように移行を進めていくかという「具体的な提案」が感じられなかった。全国的な流れや制度の説明にとどまらず、昭島市としてどう取り組むのか、明確な方向性や方針の提示を求めたい。

「費用構造の説明が不十分」

実際にこの取り組みにいくらの予算がかかり、誰がどのように負担するのか、費用の構造がはっきりしない。保護者向けアンケート案に「費用についての声」は書かれているが、それを踏まえてどのように設計していくのか、明確な説明が不足しているように感じる。

スポーツデータバンクが何を担っているのかが不明瞭

スポーツデータバンクはどの立場で何を提供・実施しているのかが曖昧。役割分担や責任の所在が不明確なまま話が進んでいる印象がある。

「この予算で本当にできるのか？」という疑念

結局のところ、移行の実現には相当な費用がかかるのではないか。「この内容で予算的に本当に実現できるのか？」という現実的な疑問を持っている。

説明内容が抽象的で「よく分からない」と感じた

今日の説明を聞いて、期待や不安はあるものの、「正直なところ、全体像がよく分からなかった」というのが多くの保護者の率直な感想ではないか。特に「休日の部活地域展開」がスタート地点であり、将来的には「平日の地域展開」も見据えているという点の説明が不足しており、誤解を招いているように思う。

「休日だけやるなら関係ない」と捉えられてしまう懸念

現時点では「休日だけ地域クラブが動く」という形だと、「平日は学校の部活があるのだから、土日は関係ない」と思われ、地域クラブへの関心が高まらないのではないか。実はそれが「将来的には平日も地域クラブが担うことになる」という大きな変化の第一歩であることを、しっかりと説明してほしい。

学校部活と地域クラブが並存する期間の整理が必要

例えば、平日は学校でバドミントン部、休日は地域クラブで同じくバドミントンという子が出てきた場合、大会などの扱いはどうなるのか？「どちらの団体として大会に出るのか？」「重複参加は可能なのか？」といった現実的な運用ルールが未整備のままだと混乱が生じるのではないか。

現在すでに似た事例がある場合の紹介を求める

もし他自治体などで、同様に学校部活と地域クラブが並存する事例があるなら、それがどう運用されているのか教えてほしい。それを踏まえて、昭島市としてはどのように制度設計・調整を行っていくのか、具体的に示してもらいたい。

地域クラブ移行と「働き方改革」の矛盾

現状、土日に地域クラブで大会に出られない場合、子どもは平日の学校部活動でしか大会に出場できない。そうなると、結果的に休日にも教員が大会引率を担うこととなり、教員の負担は減らず、むしろ休日勤務が継続するのではないかと懸念している。「地域移行＝教員の働き方改革」には本当になるのか、疑問を感じる。

開催結果と主なご質問・ご意見等

平日・休日の活動が混在することで混乱が生じる可能性

教員と地域クラブとの連携調整が必要になり、逆に教員の業務が増えることにならないか。子ども・保護者にとっても「部活動と地域クラブが並立する状態」は複雑で、本当にやりたい活動に集中できないのではないかという不安がある。

完全移行の方が分かりやすい

「学校部活動をすべて地域に移行します」と明確にされた方が分かりやすい。しかし、今のように並行期間が長引くと、制度が曖昧なまま混乱を招く恐れがある。

現時点での説明では具体性が足りない

現段階では「モデル実証の前」であり、未確定な点が多い中で説明会を実施しているため、保護者にとっては「わからないことだらけ」という印象が強い。もう少しモデル事業の具体例や、想定されるケーススタディ（「こういう場合はこうなる」）などが整理された段階で、改めて丁寧に説明会を開催してほしい。

以上

◆オンライン参加者からのご質問・ご意見等（原文ママ）

1. いまのところの実証予定の学校はありますか?
2. 保証があるから大丈夫とおっしゃったが外部の講師の方の事前の教育などでハラスメント予防などの活動は行わないのか?
3. 自治体が主体で運営する部活動だと指導者の個性が出ず全てのチームが同じ水準での活動になってしまい個々の個性が失われないのか?
4. 先ほど受益者負担についてのお話がありましたが、スポーツデータバンク様の収益の一部として、受益者が負担する費用が充てられる事はあるのでしょうか。現在の部活動では、外部指導員等への報酬に活動費が充てられることはありますが、主体である学校に費用が充てられることはないため、疑問を抱きました。

以上

地域の
みんなで創る
部活動の未来

昭島市立小中学校の保護者のみなさまへ

地域クラブ活動
あきしま Re:Club

「モデル実証」説明会

Q. 「モデル実証」とは？

A. 今後の部活動の地域連携・地域移行に向け、効果や課題を検証するため、一部の種目について試験的に実施する取組です。

in アキシマエンシス体育館



2025

7.30 水 18:00開場 18:30開始

会場 アキシマエンシス体育館

〒196-0012
東京都昭島市つつじが丘3-3-15

定員 300人 (現地会場) ※オンライン同時開催も予定

申込 右のQRコードを読み取り、専用
ウェブサイトをご覧ください。
※サイト内にある、国や市の方針を解説
した動画も、合わせてご覧ください



<https://sites.google.com/view/akishima-reclub/>